

第1回石川県防災会議震災対策部会 議事要旨

1 日時

令和6年4月19日（金） 13時30分～15時00分

2 場所

石川県行政庁舎6階災害対策本部室（オンライン併用）

3 出席者

震災対策部会長（宮島委員）ほか、委員14名

4 議題

（1）報告

- ①令和6年能登半島地震による被害等の状況について
- ②能登半島北東部陸海域で継続する地震と災害の総合調査（文科省科研費助成事業）について
- ③令和6年能登半島地震に伴う学術研究船「白鳳丸」による緊急調査について
- ④能登半島沖を含む日本海側の海域活断層の長期評価について

（2）議事

- ①石川県地震被害想定調査方針の見直しについて（事務局）
- ②石川県地域防災計画（地震災害対策編）の見直しについて（事務局）

5 議事要旨

（1）議事概要

はじめに新たに部会長に着任した宮島委員のあいさつを行い、部会長の進行で議題に入った。

報告①「令和6年能登半島地震による被害等の状況について」を事務局より、

報告②「能登半島北東部陸海域で継続する地震と災害の総合調査（文科省科研費助成事業）について」を平松委員より、

報告③「令和6年能登半島地震に伴う学術研究船「白鳳丸」による緊急調査について」を JAMSTEC 海域地震火山部門地震発生帯研究センター藤江剛センター長より、

報告④「能登半島沖を含む日本海側の海域活断層の長期評価について」を文部科学省地震火山防災研究課上野寛地震調査管理官から報告し、質疑応答を行った。

議事①「石川県地震被害想定調査方針の見直しについて」、

議事②「石川県地域防災計画（地震災害対策編）の見直しについて」

を事務局から説明し、質疑応答を行い、閉会となった。

(2) 質疑応答・意見の要旨

● 令和6年能登半島地震による被害等の状況について【資料1】

・ 質疑（重川委員）

2万棟以上の住宅が被災したということは、4万人くらいは住む場所を失ったのではないかと。現在の避難者数は約5千人とのことだが、それ以外の方はどうしているのか。公的支援とのつながりなどがあれば教えてほしい。

・ 回答（飯田副部長）

ピーク時は3万人以上の方が避難されていた。その後、水などのインフラが復旧したタイミングで、自宅に帰った方や、仮設住宅・みなし仮設住宅に入った方もいる。公的支援については、チームを作って対応している。

・ 質疑（青木委員）

p2の災害関連死の数は、熊本地震と比べてかなり少ない。今回の能登地震では、災害関連死を防ぐための対応が良かったのか、今後かなりの数が遡って計上されるのか。

・ 回答（飯田副部長）

発災当時、熊本地震の事例を考慮し、災害関連死の防止にかなり注力した。能登半島から金沢以南のホテルや体育館へ、大規模な二次避難を行った。そういった効果もあって、今のところは15人に抑えられている。ただし、これから災害関連死された方への弔慰金をお支払いする予定で、その申請や審査を行う中で、数が増える可能性がある。地震から守れた命が、その後の生活のために亡くなることは防がなくてはならない、という意識のもと、要支援者の状況を把握するよう、予防については引き続き県庁全体で努力したい。

・ 質疑（青木委員）

一部損壊した建物に戻った人もたくさんいるが、群発地震の動きはどうなっているのか。奥能登地震のような大きな群発地震が発生する可能性はあるのではないか。

・ 回答（平松委員）

以前群発地震が起こったところでは、今はあまり地震が発生していない。今後の地震を予測するのは難しいが、M7程度の非常に大きな地震が発生する可能性は低いと思うが、震源域が大きいと、M5～M6程度の地震であれば、また発生する可能性はあるかもしれない。

・ 回答（福和委員）

熊本地震において災害関連死と認定された数のうちの8割が発災から3か月間であったというのは確かだが、発災から3か月の時点では20人であった。それを考えると、現時点

の能登で災害関連死 15 人というのは不思議ではない。最終的に災害関連死がどのくらいになるかは、まだかなり時間がかかるのではないかと。

・意見（上田委員）

病院や高齢者施設における避難はかなり迅速で、約 2 日で金沢市の病院に入っている。支援チームが WEB 会議などを駆使して情報共有したことが功を奏した。J-MAT が巡回診療したところでは、災害関連死は発生しなかったということもあり、今回の能登地震では少なくとも成果を上げていると思う。

● 能登半島北東部陸海域で継続する地震と災害の総合調査について【資料 2】

・質疑（明生委員）

p8 の図について、流体と液状化現象は関係があるのか。

・回答（平松委員）

流体は地下十数キロに位置しており、また、液状化現象は地下水によるものであるため、関係はない。

・質疑（明生委員）

p10 の図について、森本・富樫断層帯については、赤色が見つからない（地震がより起こりやすくなっていない）のか。

・回答（平松委員）

森本・富樫断層帯もうっすらとピンク色になっており、将来の危険性が早まった可能性がある。

● 令和 6 年能登半島地震に伴う学術研究船「白鳳丸」による緊急調査について【資料 3】

・特になし。

● 能登半島沖を含む日本海側の海域活断層の長期評価について【資料 4】

・特になし。

● 石川県地震被害想定調査方針の見直しについて【資料 5】

・意見（北村委員）

仮設トイレの需要数について、これはおそらく被災者における必要数になると思うが、支援者においても必要な項目である。現在も被災地では仮設トイレを使用しており、携帯トイレを必要としている人もたくさんおり、備蓄量が不足している状況である。トイレだ

けは自己完結できないということを、身をもって感じた。支援者のケアという視点も検討していただきたい。

・意見（青木委員）

道路施設の被害について、今回は能登半島の先で地震が発生したため、金沢方面から通行できる道路が限られており、大規模な渋滞が発生した。各道路区間の交通量や運搬できる物資量が地震時にどうなるのか、どういった時系列で復旧していくのかなど、交通容量の見積もりができるとう良い。

・意見（松本委員）

医療機能支障や介護福祉機能支障について、今回はコロナが第5類に移行してから発生したために対応が可能であったが、これが1年前であればかなり医療がひっ迫している状態だった。新興感染症のことも考慮した想定があると良い。また、介護施設のニーズは医療ではなく食事・排泄・入浴などの生活補助であるが、これを行う支援者はかなり不足しており、J-MATの方に対応してもらった状況だった。生活を支えるという意味での支援も必要であるという視点もあると良い。

・意見（酒井委員）

長期にわたって支援活動を行いたくても、雨風をしのぐ拠点や宿泊施設の不足が課題であり、支援に入りたくても入れない時期もあった。そのあたりを含めた配慮を検討してほしい。

・質疑（飯田副部長）

p3の追加予定の断層モデルについて、公表時期の目途はどうか。また、資料2のp4にF42・F43断層があるが、これらを足し合わせたものが追加する断層モデルと考えれば良いか。

・回答（文部科学省上野寛地震調査管理官）

まずは位置・形状・規模を夏頃に発表する予定であるが、まだ審議中のため、確定版をいつ公表できるかは明言が難しい。なるべく早く公表したいと考えている。活断層の出し方については、資料2のp4の赤線のようなイメージで出てくると思う。最終的にはF42とF43がくっついたような形になると思う。

● 石川県地域防災計画(震災対策編)の見直しについて【資料6】

・意見（川村委員）

地域防災計画の見直しについて、今回の能登半島地震はどのような特徴のある災害だっ

たのか、という視点を考慮する必要がある。海に囲まれた半島という地形的な条件や、半島内の道路が壊滅的に被災した点、復旧のタイムスケジュールが大幅に遅れた点などが挙げられる。現在も、道路渋滞や断水の影響で、日帰りで対応するしかない状況である。緊急輸送路だけの整備でいいのか、道路ネットワークを整備する必要があるのではないか、道路啓開の計画を立てる必要があるのではないか、といった点を踏まえた見直しとしてほしい。

・意見（平松委員）

被災地において、地震直後に震度計が入電できず震度がわからないという状況が発生した。奥能登だけでなく、加賀でも同じ状況が発生しており、県全体として震度計の数が足りないのではないか。震度計で震度情報が得られれば、被害状況を推定することができる。県として震度計の数を増やし、面的にカバーできるようにしてほしい。

・意見（平松委員）

防災無線についても、バッテリー切れにより数日使えない状況が発生した。今回は、運良く本震直後に海域で大きな地震が無かったため、津波情報は無かったものの、携帯端末のバッテリーが切れてしまい、情報をまったく入手できない人がかなり多かった。防災無線は少なくとも1週間くらい持つようなバッテリーを整備すべきではないか。

・意見（高島委員）

消防の観点では、水道が通ってないのは非常にリスクな状況であり、消火栓に期待できないためにポンプ車や防火水槽を持って行っている。現在も、火災は発生していないものの、リスクな状況は続いている。消防では人と水と資機材がすべてであるため、特に水については何かしらのケアがあると良い。

・意見（畝本委員）

建築の観点では、住宅については安全側の想定をしておくことが備えに繋がると考えている。今回の地震時のライブカメラの映像などを見ると、短時間の揺れには耐えているが、長時間続いたときに一気に倒壊している様子がうかがえる。耐震性の劣る住宅は長時間の揺れに耐えられないため、既存住宅の耐震性の重要性については、計画でも検討してほしい。

以上